

本书系河北省高等学校人文社会科学研究项目
“中日对译过程中的〈体〉表现研究及应用”研究成果 项目编号 SZ136005

日本語から見る中国語

——形容詞の動態性と時間表現を中心に——

高立伟 著

河北大学出版社

本书系河北省高等学校人文社会科学研究项目
“中日对译过程中的〈体〉表现研究及应用”研究成果 项目编号 SZ136005

日本語から見る中国語

——形容詞の動態性と時間表現を中心に——

高立伟 著

河北大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

中日形容词动态性与时间表现研究 / 高立伟著. --

保定: 河北大学出版社, 2014.5

ISBN 978-7-5666-0618-1

I. ①中… II. ①高… III. ①汉语-形容词-对比研究-日语 IV. ①H146.2②H364.2

中国版本图书馆CIP数据核字(2014)第106248号

责任编辑: 何 东

赵彩霞

装帧设计: 王占梅

责任印制: 靳云飞

出版发行: 河北大学出版社

地 址: 河北省保定市五四东路180号

邮 编: 071002

印 刷: 保定市大地彩色印务有限公司

经 销: 全国新华书店

开 本: 1/16 (787mm × 1092mm)

印 张: 15

字 数: 220千字

版 次: 2014年5月第1版

印 次: 2014年5月第1次

书 号: ISBN 978-7-5666-0618-1

定 价: 30.00元

序文

高立偉さんは日本語構造伝達文法を研究している私のゼミで日本語の研究を始めました。研究が進むにつれて特に関心を持つようになったのはテンス・アスペクトの分析でした。テンスは「時制」、アスペクトは「局面指示体系」と言い換えることができます。

日本語構造伝達文法では、現実世界に生起する事象そのものを時間の流れにおいて捉え、事象認識を時相モデルで可視化して表現します。この理論ではテンス・アスペクトの関係を原理的に捉えるために、すべてのあり得る局面を扱うことができ、全体を体系的に把握することができます。事象の時間的あり方を2桁の数字で簡潔に表現できる利点もあります。

中国語形容詞のテンス・アスペクトは、扱いが難しいために先行研究では正面から扱われることがなかったのですが、高立偉さんはこの理論を使えばきちんと分析できるはずだと考え、本格的に研究を始めました。中国語の形容詞で表現される事象が、現実の中でどのように生起しているのかを時相モデルを使って分析を進めていきました。その過程で形容詞の程度性を可視化する必要があると考え、「程度因子」という概念を導入しました。その結果、格段に分析・考察がしやすくなりました。

研究内容の詳しいことは本書でお読みいただくことになりますが、成果として、日本語との対照において、中国語形容詞の特徴が明らかになり、また、動態表現、時間構造、時間表現という複数の視点から捉えることにより研究が体系的なものになりました。そればかりか、日本語・中国語での言語表現を、事象の各局面において示すことができるようになったために、両言語の教育において、従来のような翻訳的言語教育ではなく、事象そのものの理解に根ざした言語教育が可能となりました。このような研究成果が得られたことが高く評価されました。

ところで、高立偉さんは熱心に研究に取り組んでいたばかりではありません。一方では、人生を楽しいものにするために、人間関係を大切にしていました。相手を思いやる心が豊かな人だと思いました。博士前期（修士）課程の後輩の皆さんの面倒見もよく、一緒に食事をしたり、小旅行をしたりして、慕われていました。ディズニーランドには何回も行っているようで、いろいろなことをよく知っていて、驚かされました。

今は、大学の先生となりましたので、研究の熱心さに教育の熱心さが加わったことと思います。学生の皆さんの面倒見もよいことと思います。人生を喜びに満ちた豊かなものにすることも忘れていないことと思います。

高立偉さんの今後ますますのご活躍をお祈りしています。

杏林大学外国語学部教授 今泉 喜一

2013年12月

前言

本书是在 2013 年 3 月向日本杏林大学国际协力研究科提交的博士论文《中国語形容詞の動態性と時間表現に関する考察—日本語との対照研究から—》的基础上,经过若干修改,加上最近研究课题完成的。

总结先贤研究成果,不论是中国还是日本,以汉语形容词为中心的研究已经形成了全面性且多样化的完整体系并在不断拓展加深。但是在这其中,关于汉语形容词的动态性和时间表现,很容易被大家忽略。汉语由于其特有的语言特征,没有词尾变化,动词、形容词需要借助时间名词、副词、动态助词等来完成“时态(Tense)”与“时体(Aspect)”的表述。所以普遍认为是这些时间名词、副词、动态助词等形成了汉语的“时态”与“时体”体系。而动词、形容词本身并不能表达“过去、现在、未来”和“开始、进行中(变化中)、完成”这样的动态及时间表现。并且由于大多数研究都倾向于“动词+副词/助词”这样的对象组合,形容词的动态性及时间表现就往往被认为和动词的变化及组合方式如出一辙。但是近年来,以张国宪为代表的学者认为形容词和动词不同,在动态性和时间表现上有其自身独特的变化及表现方式,在形容词研究领域开启了一扇新的大门。但是这类研究都局限在语法机能和语义应用上,如何能更加生动鲜明的对形容词的诸多特征加以说明分析,使之更加系统化等诸多问题仍有待进一步阐明。

本书在先贤研究成果上,通过与日语的对比研究,结合“日语构造传达文法(日本語構造伝達文法)”,以汉语形容词为中心,从不同侧面对中日两种语言中的动态性及时间表现做出系统深入探讨,把日语语法中的文法构造切实应用到实际语法运用中并与汉语做对比研究,从而更加清晰明朗的反映出中日语言差异尤其是形容词中表现出来的汉语特征。

本书共由六章构成,第一章为序论部分,第二章至第五章为本论部分,第六章为结论部分。第一章通过与日语的对比研究,从不同侧面阐述三类汉语形容词(即性质形容词,状态形容词,变化形容词)的特征及其时间表现。汉语形容词与日语不同,不能通过语形来判断时态

和时体。但是它和汉语动词一样，也同样可以完整表达“性质”和“事件”含义。但是与汉语动词不同的是，在时体表现方面，性质形容词只能表现除了局面 1（开始点）和局面 3（完成点）之外的局面 2（状态持续中）；状态形容词虽然存在局面 1 和局面 3，但是其界限并不鲜明；与此相对，变化形容词此时表现出了和动词一样的时体特征。

为了更加鲜明阐述汉语形容词动态性，在第二章中通过“程度因子”的分布具体分析三类汉语形容词的内在特征。性质形容词和状态形容词由于其程度因子被固定，没有任何变化；变化形容词顾名思义，随着时间变化，其程度因子会发生增加或者减少的变化。此刻的变化形容词虽然语义特征上和动词相近，但是此时的一般动词其程度因子被固定在“0”或者“100”位置上。

第三章结合“日语构造传达文法”，通过程度因子分布图例分析汉语形容词借助动态助词“着、了、过”和方向动词“起来（来）、下去（去）”时表现的动态性和时间表现。日语需要借助动词才能表现将来完成式（未来の完了），与之相对，汉语形容词没有词尾变化不要辅助动词也能表现将来完成时，不同的是没有辅助动词不能表现将来正在进行式（未来の進行中）。除此之外，对形容词后的动态助词及方向动词所表示的动态性，做出了如下判明。

「了」：程度因子の一定程度への到達完了を表す。その結果状態の保持を表すこともある。

「着」：程度因子の固定後の程度保持を表す。

「过」：

「过₁」：程度因子の結果状態の保持を表す。一定程度への到達完了を表すこともある。

「过₂」：程度因子が固定後の程度保持の状態を表す。

「起来（来）」：程度因子が 0 から 100 までの変化の全過程の一部として状態をとらえ、さらにその結果状態の保持を表す。

「下去（去）」：程度因子が 100 から 0 へ変化する過程の一部として状態をとらえ、さらにその結果状態の保持を表す。

第四章针对有关联的汉语形容词与动词连用时所表现出来的动态性和时间表现等诸多问题进行分析研究。一般研究都认为诸如“脸红了”出现动态助词“了”（这时的“了”被定

义为“了₂”或者“了₁₊₂”)的时候,此时的形容词“红”变现出了和动词一样的特征所以归纳为“形容词变动词”。但是如果用程度因子的分布图来分析的话,此次的“红”虽然表现为和动词一样的外在变化形式,但是程度因子的变化和动词的变化完全不同,在动态变化特征上还是保留和形容词固有的特性。另外,本章中对一系列有关联的形容词、动词连用时的时间表现,及与程度副词“很”连用时的形容词的内在特征及变化形式都做了详细分析,对形容词的动态性和时间表现做出全面系统的分析。

第五章从否定形式这一侧面对汉语形容词的时间表现进行探讨,在语义用法上,历来研究对汉语否定词“不”“没(没有)”进行了明确的定义分析,但是在时间表现上,尚未有明确定义分析。本书通过与汉语及日语动词否定式的对比研究,对与形容词连用是的否定词进行了如下定义:

「不」:程度因子が固定された状態の否定。

「没(没有)」:程度因子の増減変化の否定。

本书在力图清晰系统地反应中日语言差异尤其是从汉语形容词所表现出来的不同,在实际中日教学中,不仅能使中国的日语学习者通过与母语的对比更加形象生动地了解日语特征,也能达到日本的汉语学习者更全面深入地了解汉语体系的目的。

由于汉语形容词的动态性和时间表现是一个崭新的研究领域,加之笔者水平有限,本书一定存在不少的问题与缺憾,期望广大专家及其学者不吝赐教,从而使这一领域的研究得到更大的拓展与深化。

高立伟

2013年12月

目次

序論	1
0. 問題提起	1
1. 研究の出発点	2
2. 中国語形容詞の動態性と時間表現に関する先行研究	3
2-1 中国語形容詞および他の品詞の歴史的発展	3
2-2 現代中国語形容詞研究および日中対照研究に関する先行研究	4
3. 研究方法と課題	20
3-1 研究方法	20
3-2 研究課題	21
3-3 本論文の構成	21
第一章 中国語形容詞のテンス・アスペクト表現と三分類	23
1. 中国語形容詞の文法的・語義的特徴と使用状況	24
2. 中国語形容詞のテンス表現	25
2-1 一般形容詞とは何か	25
2-2 絶対テンスと相対テンス	31
3. 中国語形容詞のアスペクト表現	39
3-1 形容詞についての分類法	40
3-2 形容詞の三分類から見るアスペクト局面：形容詞が述語になるとき	42
3-3 数字でアスペクト局面を表す	48
4. 結論	67
第二章 程度因子で形容詞の内的特性を表す	71
1. 形容詞の内的特性と程度因子	72
1-1 形容詞の内的特性：形容詞における「程度性」と「量性」	72
1-2 程度因子とは何か	73
2. 程度因子で形容詞の内的特性を表す：程度因子をアスペクト局面に入れて考える	80
2-1 程度因子で性質形容詞の特性を表す（局面2）	80
2-2 程度因子で状態形容詞の特性を表す（局面2）	81
2-3 程度因子で変化形容詞の特性を表す（局面2）	82
3. 程度因子で状態のあり方を表す：副詞が左右する場合	86

3-1 形容詞の前に置かれる副詞とは	86
3-2 副詞が程度因子の「程度性」を左右する	88
4. 結論	93

第三章 動態助詞・方向動詞と共起するときの形容詞のアスペクト表現

1. 日本語と中国語のアスペクト表現について	96
1-1 日本語のアスペクト表現	96
1-2 中国語のアスペクト表現	99
2. 後ろに動態助詞が付くときの形容詞のアスペクト表現	103
2-1 後ろに「了」が付くとき	103
2-2 後ろに「着」が付くとき	110
2-3 後ろに「过」が付くとき	116
2-4 形容詞の後ろに「了, 着, 过」が付くときの、日本語との対応状況	129
3. 後ろに方向動詞が付くときの形容詞のアスペクト表現	139
3-1 方向動詞の使用状況：動詞の後ろに付く場合	139
3-2 「形容詞＋方向動詞」が状態の変化を表す	142
3-3 程度因子をアスペクト局面に入れて考える	143
4. 結論	148

第四章 その他の諸問題（一）：一般動詞と共起するときの形容詞のアスペクト表現

	151
1. 「形転動詞」は本当に形容詞が動詞に転化したものか	152
1-1 形容詞と動詞の兼類とは何か	152
1-2 程度因子は形容詞と動詞であり方が異なる	154
2. 出来事としての形容詞と動詞との時間的な連続	156
2-1 形容詞と動詞の時間的あり方	156
2-2 形容詞と動詞、動詞と動詞の境界	159
2-3 出来事としての形容詞と動詞との時間的な連続	160
3. 「副詞＋形容詞／動詞＋動態助詞」における形容詞と動詞との異同	163
3-1 「程度副詞＋形容詞／動詞＋了」の使用状況	165
3-2 「很＋形容詞／動詞＋了」における形容詞と動詞の兼類関係	166
3-3 動詞と形容詞の兼類の実際（「C」で表記）	168
3-4 程度因子と程度副詞で兼類を図示する	170
3-5 「很＋形容詞＋了」で程度を表す形容詞を「DA」とする	171
4. 結論	173

第五章 その他の諸問題（二）：形容詞の否定形式におけるアスペクト表現

	175
--	-----

1. 中国語否定詞の定義とその使い分け	176
1-1 没（没有）：動作の実現や完成および状態の変化を否定する	176
1-2 不：事実および事物の性質や状態、意志や願望などを否定する	178
2. 否定形式の図示法：概念によって設定された時間／空間が空になる	180
2-1 日本語の肯定と否定と時空モデル	180
2-2 形容属性否定の「ない」	181
3. 中国語形容詞の否定形式におけるアスペクト表現	184
3-1 動詞と一緒に用いられる「不」、「没」	184
3-2 形容詞と一緒に用いられる「不」と「没」におけるアスペクト表現	184
3-3 数字で形容詞の否定形式を表す	187
3-4 なぜ変化形容詞は「没」でも否定を表せるか	204
4. 結論	212
第六章 結論	215
参考資料	221

序論

0. 問題提起

従来、日本でも中国でも数多くの研究者が中国語の形容詞についての研究を進めてきたが、その中の大多数は文法および文法機能・語義用法を中心として研究を行っている。一方、文法形式として動態性と時間表現に関わるものとしての研究は数が少ない。近年、時間表現を中心とした研究が盛んになってきているが、欧米の言語理論の影響を受けているため、中国語のテンス・アスペクトを単純化する傾向がある。また、日本語との対照研究は数少ないのが現状である。中国語はほかの言語と異なり、語形の変化がなく、ほかの要素と共起することによって、テンスとアスペクトを表す。とりわけ形容詞は興味深い存在であると思われる。中国語の形容詞に関わる研究はまだ体系化されるに至っていないのが現状である。筆者は動態表現、時間構造、および時間表現という複数の視点から、中国語形容詞を捉え、中国語形容詞研究をより体系化したい。また、本研究は日中言語の対照研究であることから、研究成果は日本語や中国語の言語学習の役に立ち、言語教育の上でも有意義なものになるのではないかと思う。

1. 研究の出発点

劉月華 (2001) は「(中国語の) 全ての品詞の中で、形容詞の語構成法が最も多様である。のみならず語構成の異なる形容詞は文法的特徴の上でも異なる点がある。」と述べている。また、形容詞は動詞との文法的特徴の共通点が多いので、形容詞を動詞の中の一つの類と見なす研究者もあれば、形容詞と動詞を合わせて述語「謂語」と呼ぶ研究者もある。まず、以下の例文を見てみたい。

(1) 我的头开始痛了。(森) (私は頭が痛くなった。)

(2) 戴晓蕾的脸也明亮起来。(来) (戴晓蕾は顔も明るくなってきた。)

(3) 这一道波峰又平缓了下去。(来) (この波はまたゆるやかになっていった。)

以上の例文では、「痛」、「明亮」、「平缓」いずれも形容詞である。形容詞の後ろに「了」「起来」「下去」のような補助的な語が付くことによって、異なる時間表現を表すことができるようになる。中国語は英語、日本語などの言語と異なり、語形の変化がなく、語法表現と語彙表現によってテンスとアスペクトを表している。このような変化について、張 (2006 : 133) は「“了” 表述性状转变的完成，而“起来，下去” 则表述新性状的程度发展 (“了” は性質・状態の変化完了を表し、“起来，下去” は新しい性質・状態の発展の程度を表す」と述べている。張を代表とする中国語形容詞の研究では語義用法から考察するが、“了”、“起来”、“下去” を用いる形容詞がどのような動態的表現にあるかということと時間上でどのような表現がありうるかについてはわずかししか触れていない。本論文ではこれを一つの課題として解明の道を進みたい。

2. 中国語形容詞の動態性と時間表現に関する先行研究

2-1 中国語形容詞および他の品詞の歴史的発展

向(2010)は上古・中古の中国語文を考察して、形容詞の発展およびその特徴を明らかにしつつ、形容詞と他の品詞との歴史的関係について明らかにし、以下のようにまとめている。

2-1-1 上古时代

- (1) 周秦时期, 汉语形容词大大增加。形容词的基本句法功能仍然是做定语, 状语和谓语。

(周秦時代、中国語形容詞の数が大幅に増加した。形容詞の基本文法機能は依然として連体修飾語、連用修飾語、述語になることである。)

- (2) (上古时期) 名词代表事物的名称, 动词代表人物的行为, 形容词代表事物的性质, 它们在词性和语法功能上都有所不同。但在上古汉语里, 它们的关系非常密切。如: 第一, 有一部分词兼有两类或三类次的性质和特点。

第二, 名词, 形容词, 动词都可以用于使动式。

第三, 名词, 形容词都可以用于意动式。

(〈上古時代〉名詞は事物の名称を表し、動詞は人の行為を表し、形容詞は事物の性質を表す。それぞれの品詞性と文法機能は異なっているが、それらの関係は非常に密接である。たとえば:

第一、一部の品詞は二種類あるいは三種類の品詞の性質と特徴を持つ。

第二、名詞、形容詞、動詞はいずれも使動式で用いられる。

第三、名詞、形容詞は意動式で用いられる。)

2-1-2 中古时代

- (1) 形容词词尾的规范: 上古“然, 而, 如, 尔, 若, 焉”等状态形容词和副词词尾, 到了中古, 除“然”继续应用之外, 其余在口语里大都逐渐淘汰。这种趋势从上古末期已经开始, 到中古更加明显。

(形容詞語尾の規則: 上古の“然, 而, 如, 尔, 若, 焉”などの状態形容詞と副詞語尾は、中古に入って、“然”のみが用いられたほかは、話し言葉では使われなく

なった。)

(2) 新的形容词词尾: 中古由结构助词虚化而来的形容词词尾有“生, 底, 地”。

(新しい形容詞語尾: 中古には、構造助詞の虚化から生まれた形容詞語尾として「生, 底, 地」などがある。)

(3) 中古汉语名词, 动词, 形容词的声调区分: 以声调分名词, 动词, 形容词是上古到中古汉语词类发展的标志之一。上古汉语单音词中兼类词甚多, 往往一个词兼有不同的词性而读音上没有任何区别。汉魏以后, 汉语中古四声形成, 声调既是汉语构词和区分词义的手段之一, 也是为汉语词类区分的手段之一。

(中古の中国語名詞、動詞、形容詞の声調区別: 上古から中古にかけて、声調で名詞、動詞、形容詞を区別するのは中国語発展上の標識となる一つである。上古中国語では、単音節詞の中に、兼類詞がかなり多く、その兼類詞は異なる詞性を持つが、発音は変わらない。漢魏以降、中古の中国語に四声調が生まれた。声調は中国語構造と詞義を区別する手段の一つでありながら、詞類を区別する手段の一つでもあった。)

向(2010)は文法機能・詞義の視点から上古・中古の中国語の各品詞の発展を考察した。やはり歴史的には、後ろに語尾が付くことによって、形容詞であるかどうかを判断することができるが、後ろに「了」、「着」、「过」を付けてアスペクトを表すのは現代に入ってからのことである。また、時間名詞のみでテンスを表すことが考えられる。本稿では時間構造を中心として形容詞の特性を明らかにするのに、各品詞の歴史とその発展を見る必要があるため、上古・中古時代の歴史を概観した。

2-2 現代中国語形容詞研究および日中対照研究に関する先行研究

2-2-1 孫偉 (2007: 48-51)

孫は日本語との対照研究から動詞を中心として中国語のテンスとアスペクトを考察している動詞が中心であるため、形容詞にはすこししか触れていない。形容詞は動詞と違い、後ろに動態助詞が付くものと付かないものがある。そして、形容詞自体の特徴により、アスペクト表現も多様である。形容詞が述語になるとき、その形容詞における時間表現については、孫は以下のように、5種類を分けている。

①形容詞が動態助詞「了」を帯びる場合

- (4) 郁容秋果然慌了。(郁容秋は案の定慌てた。)
- (5) 秀秀的模样终于撩乱了他的心。(秀々の様子は、ついに彼の心をモヤモヤさせた。)
- (6) 于是我热了一瓶米酒。(それで、私は一本の米酒を暖めた。)
- (7) 我舅舅比我大了三十多岁。(伯父は私より30歳以上も年を取っている。)

形容詞の後ろに動態助詞「了」がつき、(4)のように「形容詞+了」で出来事が過去にあることを表すことができる。また、「了」の後ろに名詞、数量詞などを用いても、同様に過去が「了」によって表されることは変わりがない。ただし、(7)のような「形容詞+了」の形をとっているが、「了」を省いて、あるいは「了」に換えても、文法および意味上に何も変化が生じない文も存在している。このような場合には、「了」が過去を表しておらず、過去に発生した出来事の結果が現在にある状態、すなわち状態現在を表している。「形容詞+着」が同様に状態現在を表す機能を持っているため、「了」と「着」の互換が実現できるのである。

②形容詞が動態助詞「着」を帯びる場合

- (8) 孩子仍然迷茫地沉默着。(子供はあいかわらずぼうとして沈黙している。)
- (9) 海河口上横着一道堤闸。(海河の川口に水門が一つ横たわっている。)

動詞の性質に従って、(8)では出来事の動作(進行中)、(9)では出来事の状態が表されているが、「着」がないと、(8)が非文となり、(9)が未来の文となる。やはり時間が現在であることはともに動態助詞「着」によって表されていると考えられる。ただし、形容詞には「着」がつく形容詞とつかない形容詞がある。動作性形容詞には「着」をつけることができるが、物事の性質や状態を表す非動作性形容詞(たとえば「好、坏」)などには、「了」と「过」をつけることができても、「着」をつけることができない。「形容詞+着」を用いる場合、形容詞を使い分ける必要がある。

③形容詞が動態助詞「过」を帯びる場合

- (10) 他和秀秀好过两年多。(彼は秀々と2年以上も仲良くしていたことがある。)
- (11) 是的, 我痛苦过。(そう、私は苦しんだことがある。)

「过」を用いないと、(10)が非文となつて、(11)が未来の文となるため、過去(の経験)は「过」によって表されていると考えられる。

④形容詞がそのままの形で述語になる場合

- (12) 雨后的天气特别凉爽。(雨後(の天気)は非常に涼しい。)
- (13) 书店里很安静。(本屋の中はとても静かだ。)
- (14) 只不过脏一些。(ただし汚いに過ぎない。)
- (15) 我们的麻醉性镇痛剂使用非常严格。(私たちの麻酔性鎮痛剤に関する使用は非常に厳格である。)

形容詞の主な機能は出来事の状態や性質などを表すことにある。形容詞の後ろに動態助詞がつかない場合、その時間性は、過去を表す詞（動態助詞、時間名詞など）がないため、非過去の範疇に属すると考えられる。また、動態助詞を帯びていない形容詞の機能から考えれば、出来事は動作ではなく、状態などがとらえられて表現されている。に見るように、文はすべて一般現在形の文である。したがって、形容詞がそのままの形で述語になる場合においては、「形容詞＋0 動態助詞」の存在が考えられ、動詞の一般現在形と同じように、「0 動態助詞」が現在の時間を表していると考えられる。

⑤時間名詞と時間副詞が用いられる場合

- (16) 桌上的菜已经彻底凉了。(テーブルの上の料理はすでに完全に冷めた。)
- (17) 以前有不少男人跟我好过。(以前、多くの男性が私と仲よくしたことがある。)
- (18) 五爷家曾经这么热闹过。(五爺の家はかつてこんなににぎやかだった。)
- (19) 他们正在忙着领导汾阳市附近震北村的农民抗租运动。(彼らは絨汾市近くの震北村の農民抗租運動の指導を忙しくやっている。)
- (20) 我现在很清醒。(私はいま、とても冷静だ。)
- (21) 明天我化妆室里的花篮就会多得堆满门口。(明日、私のメーキャップ室の花かごはドアまで並べられるほど多くなるだろう。)

出来事が過去である場合、時間名詞あるいは時間副詞が動態助詞「了、过」と併用されることが多い。それは動詞と同じように、動態助詞が過去のテンスを決める中心的存在であるからである。出来事が現在である場合には、それを動作性と状態性に分けて考える必要がある。出来事が動作性であるとき、時間副詞「正在(正)」と「着」を併用することが多く、出来事の時間が進行中（あるいは繰り返し）の現在であることを表している。出来事が状態性であるとき、「正在(正)」と「着」が用いられることがなく、

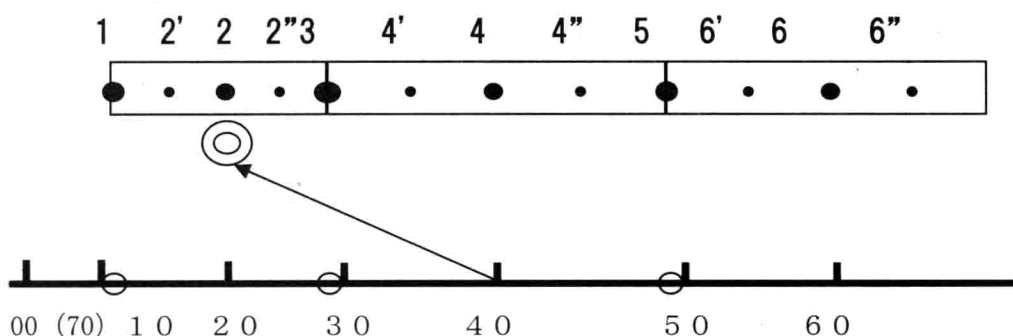
現在を表す時間名詞あるいはほかの時間副詞によって、出来事の現在における状態や性質などが表される。未来の出来事に関しては、形容詞だけでは、現在の出来事しか表すことができないため、未来の時間を表す名詞や副詞が必要となってくる。

孫は動詞を中心として研究を行っているため、全体的に形容詞が「了」、「着」、「过」を用いたときの時間表現を把握して述べている。本論文では孫理論を基本として、より深層から形容詞の内部的および外部的時間表現を明らかにする。

2-2-2 今泉 喜一 (2003)

今泉は（日本語の）テンス・アスペクトの位置関係を図0-1のように示した。

図0-1 今泉 (2003 : 61) 発話時点とアスペクト言及点の図



図では、現在点の位置を2桁で示し、言及点（アスペクト局面）の位置を1桁で示す。言及点1は「開始」、言及点2は「進行中」、言及点3は「完了」、言及点4は「結果状態継続中」、言及点5は「結果状態完了」、言及点6は「結果記憶」のようになっている。（言及点7は開始を開始後から言及する場合に使用する。）現在点と言及点を結ぶ線を「言及線」と呼び、これは数字を[]の中にいれることによって表示する。この図で、時間的（テンス・アスペクト）を表すことができるようになっている。（たとえば[42]というのは[40 + 2]のことで、過去の進行中を表す。）

今泉のアスペクト体系論から、アスペクト言及点における各局面の時間的表現は以下のようにまとめることができる。